

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
2	88	チームアプローチ入門
2	100～101	日常生活活動学実習
3	126	内部障害理学療法評価学演習
3	146	地域理学療法学演習

						科目ナンバリング		
						ReFc02		
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力			
		●	●		●			
科目名	チームアプローチ入門				単位 認定者	外里 富佐江 網本 和 高橋 由美		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位	
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回	
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。							
到達目標	・チーム医療とは何かを説明できる ・チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる ・自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する							
学修者への 期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。							
回	授業計画			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	チーム医療・患者中心の医療とは			事前学修:教科書 第1章 (p1-6)を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江
2	チーム医療におけるコミュニケーション			事前学修:教科書 第1章 (p7-17)を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江
3	理学療法士の役割・専門性について			事前学修:教科書 第1章 (p21～38)を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	網本 和
4	作業療法士の役割・専門性について			事前学修:教科書第3章 (p103-119)を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江
5	看護師の役割・専門性について			事前学修:教科書3章A～Fを読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美
6	チーム医療の実際①：看護師からの視点			事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美
7	チーム医療の実際②：理学療法士からの視点			事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	網本 和
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点			事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江
9	チーム医療の実際④：病院			事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	網本 和
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療			事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江
11	事例検討 [1] 事例提示			事前・事後学修：これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む		30	30	網本 和 高橋 由美 外里 富佐江
12	事例検討 [2] グループワーク					30	30	網本 和 高橋 由美 外里 富佐江
13	事例検討 [3] 発表準備					30	30	網本 和 高橋 由美 外里 富佐江
14	事例検討 [4] 発表1			事前学修：グループワーク・発表内容を振り返る 事後学修：グループワーク・発表からの学びについてレポート提出		30	30	網本 和 高橋 由美 外里 富佐江
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ					30	60	網本 和 高橋 由美 外里 富佐江
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、課題解決型学習）							
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂							
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベリック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版							
備考	・授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・PT・OT合同で実施する。第1～6回、第11～15回は看護学部と合同で実施する予定です。							

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
理学療法士、看護師、作業療法士(病院等に5年以上勤務)として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd15				
			●	●						
科目名	日常生活活動学実習				単位 認定者	網本 和		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（実技）	30 %
						授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	ADLはリハビリテーション専門職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。本科目は、日常生活活動学で学んだ知識を活かし、日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解し、より実践的な疾患別のADL介助やADL指導方法について学修する。寝返り動作や起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、歩行補助具である杖・松葉杖・車いすにおける選び方や使用方法の実際を実践する。									
到達目標	1. 基本動作を中心とした各動作の介助・指導を行うことができる。 2. 日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解できる。									
学修者への期待等	・ 基本的介助誘導の講義では、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当		
1	日常生活活動学の必要性			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	網本 和		
2	寝返り・起き上がり動作の基本的介助・誘導			事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：実技修得できるよう練習する		30	60	森永 雄		
3	起立・移乗動作の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄		
4	ベッド上移動・車いす移動の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄		
5	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（T-cane、Q-cane）					30	60	小関 友記 森永 雄		
6	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（松葉杖）の基本的介助・誘導					30	60	小関 友記 森永 雄		
7	車いす上移動の基本的介助・誘導					30	60	森永 雄		
8	脳血管疾患におけるADL指導の実際（基本動作中心）			事前学習：指定教科書p38-95をよく読み、予習する 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する		30	30	小関 友記		
9	脳血管疾患におけるADL指導の実際（生活関連動作中心）					30	30	小関 友記		
10	神経筋疾患におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂		
11	神経難病におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂		
12	呼吸器・循環器疾患におけるADL指導の実際			事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。		30	30	伊橋 光二		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
13	関節リウマチにおけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	鈴木 裕治
14	人工股関節全置換術後におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	網本 和
15	脊髄損傷（四肢麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p96-159をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
16	脊髄損傷（対麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p160-173をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
17	症例検討（整形外科疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
18	グループワーク（整形外科疾患）		30	30	小関 友記
19	症例検討（脳血管疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
20	グループワーク（脳血管疾患）		30	30	小関 友記
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	羊土社 PT・OTビジュアルテキストADL 第2版 ISBN：978-4-524-24578-9				
参考文献					
備考	A B 別 2 クラス 【評価】試験（実技）30％は随時試験であり、「2-7回の基本的介助・誘導（森永）」から出題し、態度・技能・表現の3要素から採点を行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理解と実践ができるように授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMc05						
			●									
科目名	内部障害理学療法評価学演習				単位 認定者	伊橋 光二 伊藤 大亮			評価の 方法	試験（実 技）	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1	単位		試験（筆 記）	40	%
						授業時間数	30	時間		授業内課題 （レポート 等）	10	%
				授業形態	演習	授業回数	15	回				
授業の概要	本科目では、主として内部疾患の病態を把握するための検査手技や内部障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、内部障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定の方法について学修する。											
到達目標	1. 内部障害に対する各種評価の意義、方法、結果の解釈ができるようになる。 2. 内部障害疾患に対するリスク層別化と各種評価を実践できる。											
学修者への 期待等	内部障害分野における臨床実践力の基礎を身に着けることを期待します。											
回	授業計画・学修の主題				準備学修					事前学修時 間(分)	事後学修時 間(分)	
1	呼吸器系の身体機能評価の概要：視診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
2	呼吸器系の身体機能評価の実践：視診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
3	呼吸器系の身体機能評価の概要：触診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
4	呼吸器系の身体機能評価の実践：触診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
5	呼吸器系の身体機能評価：打診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
6	呼吸器系の身体機能評価の概要：聴診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
7	呼吸器系の身体機能評価の実践：聴診				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
8	呼吸器系の身体機能評価：ADLやQOLの評価				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
9	肺機能検査・酸塩基平衡（動脈血液ガス）				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
10	X線画像の評価				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
11	循環器系の身体機能評価：血圧・脈拍測定				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
12	循環器系の身体機能評価：運動機能検査				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
13	循環器系の身体機能評価：運動耐容能と身体活動量				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
14	循環器系の身体機能評価：ADLやQOLの評価				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
15	循環器系の身体機能評価：リスクの層別化				事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる					30	30	
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（バイタルサイン）											
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」南江堂											
参考文献												
備考	2クラスに分かれて実施する。											

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMf02	
		●	●		●		
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	網本 和	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	後期	単位数	1 単位
						授業時間数	30 時間
				授業形態	演習	授業回数	15 回
授業の概要	本科目では、地域理学療法学で学修した知識をもとに、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。事例を通して、高齢者・障害者・障害児を含むあらゆる地域住民に対する具体的な理学療法士の支援について理解し、相談支援、訪問理学療法・通所サービスなど地域における理学療法士としての役割と実践について学修する。						
到達目標	1. 在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援を理解することができる。 2. 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。 3. 地域における理学療法士としての役割を理解し、実践力を高めることができる。						
学修者への期待等							
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1	地域理学療法学の理念と背景		事前学修：地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
2	施設のリスクマネジメント		事前学修：リスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
3	病院・施設外のリスクマネジメント		事前学修：病院と施設のリスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
4	行政における理学療法士の役割		事前学修：行政の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
5	学校保健および特別支援教育		事前学修：学校保健の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
6	スポーツ活動支援		事前学修：スポーツ理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
7	介護保険下の入所サービス		事前学修：入所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
8	介護保険下の通所サービス		事前学修：通所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
9	訪問における理学療法		事前学修：訪問リハについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
10	健康増進・介護予防		事前学修：健康増進、介護予防について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
11	産業理学療法		事前学修：産業理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
12	事例検討① 障害児と理学療法士の関わり		事前学修：障害児の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
13	事例検討② 在宅の脳血管障害と理学療法		事前学修：脳血管疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
14	事例検討③ 在宅の神経変性疾患と理学療法		事前学修：神経変性疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
15	事例検討④ 終末期の在宅理学療法		事前学修：終末期の地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（症例ごとのグループワーク）						
教科書	指定しない						
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院						
備考	2クラスに分かれて実施する。						

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)